



2021年も最後の月となりました。皆さんにとっての2021年はどんな年でしたか？  
これから寒さが厳しくなりますが、体調を万全に、この冬も乗り越えていきましょう！

さて、前回の号では読書週間ということで、ビブリオバトル形式で本の紹介を紙面で行いました。

☆バックナンバーは水戸市立図書館のホームページで公開しています。

今回は、読書週間のキャッチコピーにあった、本の「ラストページ」にまつわる小ネタを紹介します。

## 【奥付のはなし】

本の**奥付**を見たことはありますか？

奥付とは、本の最後のページや裏表紙の内側などにある、本のタイトルや作者名、出版社・印刷会社名、印刷・発行された年月日などが書かれた部分です。

本の基本的な情報として重要な奥付ですが、実は「絶対につけなくてはならない」法的な根拠はありません（※1）。ですが、日本で出版されるほとんどの本には、慣習的に奥付がつけられています。

皆さんが手に取った本も、いつ出版されたのか、何回増刷されたのか、奥付を見ればすぐに分かります。

例えば、ベストセラーの本は、増刷の回数やタイミングで、人気の勢いがうかがえます。ロングセラーの本も、発行・改版の年月日、刷数などで、これまでの発行の経過を知ることができます。

（※1）明治時代の法律により、発行者の氏名・住所、発行年月日等の記載が義務付けられましたが、第二次世界大戦後に廃止されました。

タイトル

奥付の例

**僕っちゃん**

---

著者 夏日 岩瀬  
出版 石波書店

発行年月日

1985年7月1日	初版第1刷発行
2016年3月25日	第2版第1刷
2021年1月1日	第2版第3刷

### 「版」と「刷」の違い

**版** 印刷の元になる原版のこと。  
原版にインクを塗って紙に写し、本を印刷する。内容を加筆や修正した場合は、別の版となる（改版）。  
第2版・第3版…と続く。

**刷** 同じ版で印刷した回数のこと。  
同じ版でもう一度印刷することを増刷という。

左の奥付では、1985年に初版が発行され、2016年に改訂があり、同じ版で2021年に印刷された本、ということが分かります。